

令和3年度姫路赤十字看護専門学校「学校評価」

	実施状況	今後の取り組み・課題
教育理念・目的・目標	人道を基調とした教育理念・教育目標を学生便覧、教育課程冊子に記載して学生に配布しており、入学時オリエンテーションや実習オリエンテーション時などで意識できるように説明している。 学校運営会議、講師会議、学校関係者評価会議、実習調整会などを通じて、教育理念、教育目的、教育目標、年間の教育計画等を共有し、運営している。学生や保護者へは学校広報誌「カリオン」や保護者会などで理念等を周知し、アンケートを用いて周知度を確認している。 また、理念等については社会の動向とニーズを確認しながら、適宜検討しており、カリキュラム改正を機に赤十字看護専門学校の教育目標として更新した。	令和4年度からの第5次改正カリキュラムを新入生へ実施 赤十字看護教育施設の教育理念、目的、目標、卒業時の到達目標、主な学習内容の変更内容が軌道に乗るようモニタリングしながら修正を図る。
学校運営	学校運営を円滑に進めるために、目標管理、小グループ活動としてアクションプランを用いて事業計画を進め、職員会議で進捗状況を報告して達成に向けている。 学校運営に関する意思決定のために、学校運営会議、教育会議、教師会議、職員会議、講師会議を規程で定めて、年間計画をたて、適切に開催している。 今年度、新入生から電子教科書を導入し、10月にはWiFi環境等も整備された。学修環境としての課題は学生の意見も反映させながら調整を図っていく。	教務システムを導入して学生の利便性と業務の効率化を図る。 看護基礎教育体制の再構築に関して、学校運営会議で①赤十字のキャンパス化は財政確保困難、②看護師確保の点から看護専門学校は存続の方針で決定している。 日本看護協会では、専門学校4年制化が検討されており情報を共有しながら引き続き検討していく。
教育活動	今年度は日本看護学会が学生のWeb参加を希望する学校に一枠、ライブ配信とオンデマンドの視聴期間が付与されたため、全学年が学会を体験した。 学生の看護実践能力は、社会人基礎力を継続的に自己評価した結果、学生が自身を振り返る機会になっている。臨地実習については、設置医療施設と実習調整会で実習方法を検討し、学生が看護の楽しさを体験できる実習を目指しており、臨地実習での未認定者は減少した。	学会で得た看護の動向や知見の刺激は大きく、次年度からも継続していく。講師には小テストなど毎回の講義内で工夫していくことが学生の学びにつながることを講師会議で共有した。 「社会人基礎力と行動指標」を継続して活用する。
学修成果	設置医療施設へ就職を基本に、学生の適性など諸事情に応じて、県内および近隣府県の赤十字病院や県内の他の医療施設への就職希望について対応している。今年度の卒業生の90%が設置医療施設に就職した。資格・免許の取得率は、平成19年度以降、看護師国家試験の合格率100%を維持している。 看護師国家試験対策特別講義など学習指導の効果について卒業生にアンケート調査を実施し、次年度の講義内容や支援方法の検討を行っている。	設置医療施設への就職率の目標値80%以上を達成できるように関わっていく。 看護師国家試験に向けて、傾向分析会での情報などを参考に受験対策を検討し、学生に伝達していく。 また、模擬試験の全国データを本校の学生との比較検討、正答率の悪い問題の分析、学習強化を行っていく。講師会議等を通じて、1年

		次から学習が進められるよう講師と協力していく。
学生支援	学生の就職等の進路希望は面接で確認している。2 年次に、①キャリアデザインガイダンス「就職活動準備講座」②就職試験直前ガイダンスを実施している。 卒業前にナースセンターによる出張講義、租税教室、過労問題出張授業等を実施し、社会人としての自覚を高めている。 学生相談の体制としては、特に実習開始に伴い不調を訴える学生が多いため、学年毎に心の相談室相談員や臨床心理士によるメンタルヘルス講義を実施している。 学生生活は、COVID 19 感染症の予防対策を取りながら、学生が学習を継続できる支援体制を整えている。各種奨学金に加え、学生支援緊急給付金等の案内をして学修継続できるように手続きを進めた。 学校保健計画を定め、年に 1 回校医による健康診断を実施、有所見者には受診を勧め、その後の経過観察、結果を保管している。予防接種等も設置医療施設の協力のもと計画的に実施している。 保護者との連携では、学校からのお知らせと緊急時の対応として、保護者のメーリングリスト登録を整え、活用している。	面接では、具体的な将来のビジョンを聞き、個別の進路等の相談に応じていく。 設置医療施設には、学生が自由に利用できる「こころの相談室」が整備され、専任の心理相談員によるカウンセリングへ早期につないでいく。 校医との健康診断の進捗状況の共有を図り、遅滞なく実施する。
教育環境	平成 13 年に新築移転して 20 年が経過しており、設置医療施設と連携し、施設の改修・改善を計画的に進めている。教育上必要な機械器具、標本、模型及び図書は、看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインに示されている数量を維持している。 防災・安全管理として、学校保健安全法第 27 条で策定が規定されている学校安全計画を運用しており、災害時の体制整備として、危機管理マニュアルは、現在検討中である。自校の BCP 平常時、レベル 0～2 を運用し、平常時より各自で水・食料を備えている。また、複数の連絡手段確保のために個人記録を作成している。	老朽化している模型も多く、支援金や寄附金を計画的に活用していく。 万が一に備えて、全学生は総合補償制度 Will に加入、通学時に自転車を使用する学生には自転車損害賠償保険の加入の利用は年に数件発生しているため、今後も継続していく。交通事故・針刺し事故など
学生募集と受入れ	学生募集活動として、推薦入学試験の案内として高校訪問を実施した。また、オープンキャンパスは実施時期を春休みに早めた。参加定員を 1 回 40 名から 20 名に減らして実施したが、令和元年度並みの参加者に回復した。 ホームページの内容についてアンケートを実施し、募集要項、学校生活、ブログ、よくある Q&A が多くアクセスしていることから、当校の魅力を十分伝えるためホームページのデザインと内容を刷新した。	18 歳人口は今後も漸減が続くが、本校を第一志望としている者は少し増加傾向にあり、引き続き推薦・社会人・一般入試で良質な学生の確保を図る。
財務	財務基盤として学納金、補助金以外の費用は設置医療施設が負担している。学校の経営基盤(設置医療施設の財政状況)は、教職員に示し、コスト管理を意識している。今年度は IT 推進化プロジェクトとして、書類と備品の整理、ペーパーレス化推進の他、学修環境の整備、教務支援システムの導入を検討し、教育の質の向上をめざしながら、コスト削減にも努めた。	教育に関する教材やシステムは、COVID19 をきっかけに急激に IT 化が進んでいるため、情報収集を行いながら学習効果が期待されるものを選択して活用していく。

法令遵守	関係法令や看護学校設置基準等の遵守、個人情報の保護、学校評価、教育情報の公開などの項目については、適切に運用し、学校運営を行っている。学校評価は赤十字看護専門学校における学校評価ガイドライン平成 27 年度改訂にそって、計画的に点検・評価を行っている。評価結果は運営会議や学校関係者評価会議等で検討し、改革・改善に取り組み、報告書にまとめて学校広報誌やホームページ等に掲載している。	成年年齢が引き下げられた影響が学生に悪影響を及ぼされないよう成人としての自覚と責任が育まれるよう支援していく。
社会貢献・地域貢献	教員は、日本赤十字社兵庫県支部、兵庫県看護協会等の講演や研修の講師あるいは委員として活動している。 赤十字健康生活支援講習講師あるいは赤十字講習の指導員としてボランティア要請に応じている。また、地域の小学校で体験交流活動「いのちの授業」の講師として参加している。 学生は赤十字活動論の講義の中でボランティアについて学んでおり、全学生は奉仕団に所属してボランティア活動を活発に行うことで、地域とのつながりをもっている。今年度は内容を変更して、勉強会の実施、メッセージカードの送付や活動内容の動画配信を行った。	次年度は、新カリキュラムの中で新設された「地域・在宅看護論」の科目履修も兼ねて地域に出る機会を増やしボランティア活動を拡大していく。
国際交流	「外国語 1・2」は、英語を母国語とする外国人講師に日常英会話、「外国語 3」は、医療英会話、「外国語 4」は 国際救援活動の経験が豊富な看護師に国際看護として依頼してきた。 また、例年、本社学生研修で赤十字の国際活動について講演を聴く機会や JICA 関西を訪問する機会もあるが、今年度は中止となった。海外留学等の希望は出ていないが、必要時、休学手続きの上、対応していく。	新カリキュラムの中で、「外国語 1・2・3」は「外国語 1・2」となり医療英会話とし、医療英語検定等にも挑戦していく。そして、「異文化論・グローバルヘルス」の科目で国際看護・医療英会話を発展させて学んでいく。 地域や病院で出会う外国人とのコミュニケーションを目標として国際性を日常から磨いていく。
総合評価	本校は赤十字の基本理念「人道」を看護実践で具現化して活動する看護師を育成することを使命としている。キャリア教育の推進では、コロナ禍でインターンシップの体験には困難があった。しかし、設置主体施設での看護補助者のアルバイトの経験により病棟の雰囲気を知る機会となり、医療設置施設への就職にもつながっている。社会人基礎力の育成については、「社会人基礎力と行動指標」を継続的に自己評価できるようにし、「実習以外の学生生活場面で養いたい態度・能力についての社会人基礎力と行動指標」「学生生活の中での社会人基礎力の行動指標」を活用していく。 学生募集と受け入れについては、ホームページを刷新し、学校の魅力を伝える効果的なデザインと内容に変更して、推薦、社会人、一般入学試験受験者数の増加につながった。引き続き、高校の進路指導部や予備校の先生方との情報交換の機会を持ち、本校が求める良質な学生の確保に努めていく。学校説明会やオープンキャンパスは、3 月より授業動画やスタンプラリー等のゲーム感覚も取り入れ、学校の魅力を周知して選択できるよう工夫した。また、まん延防止等重点措置が発出 には、Web 開催で対応した。 教育活動として、日本看護学会がコロナ禍に伴い、Web 開催となったため、学生と教員全員が参加することができた。また、他の赤十字専門学校の学生との Web 交流会を新たに実施して、学生には大きな刺激となった。 学習支援として、必要時、保護者との個別面談を実施し、学生の学校生活については、授業や行事につい	

てブログや動画配信をした。引き続き、必要な内容はホームページから情報が得られるように充実を図っていく。学習成果として、看護師国家試験を全員が合格し、就職率 100%、設置主体施設への就職率 90%であった。

財政面では、学生は高等教育修学支援制度や専門実践教育訓練給付金が利用できるようになった。また、新型コロナウイルス感染症対策助成事業、日本学生支援機構の学生支援緊急給付金「学びの継続」や姫路市の緊急学生支援給付金などを学修継続として活用ができた。学校運営上、新カリキュラムに伴う教育課程は承認され、来年度から 2 年間は新旧カリキュラム併行運用となるため 必要な教育の質を向上させていく。そして、コストマネジメントを実践し、教職員にとっても働きやすい職場環境の整備を図っていく。